

ひと ひと

女と男の情報紙

笑がお



若者の笑顔

ケニアのナイロビでスラムの子どもたちの命を守る活動を紹介するテレビ番組を見た。

「チャイルド ドクター」という その活動をしているNGOケニア事務局の代表は、宮田さんという日本人の若者だった。

「チャイルド ドクター」は、支援を必要とする子どもたちに支援者が、1ヵ月1口1,000円を寄付することで、子どもは寄付をしてくれた人の名前の入った無料の診察券を手し、病院で治療を受けられるのだ。そして、支援者は、支援する特定の子どものメールのやりとりなどで、親密にかかわることができるという。3歳以下の死亡率が日本の30倍という地域で、早めに手を打つことで子どもの命を守ろうという取組みだ。これに似たような取り組みはあちこちで目にするのがあったが、こちらの気持ちを伝えられ、相手からの返事も翻訳されて、すぐに見られるのは素晴らしいと思った。

何より取り組んでいる宮田さんの笑顔がいい。沢山の問題を抱えながらも一生懸命だ。

彼がなぜ、このような活動に入ったのかを聞いたとき、心が震えた。

世界中をあちこち見て歩いていた時、カナダで暴漢に襲われ命を失いかげ、うすれゆく意識の中で、自分は生まれてきて他の人のために何かすることができただろうか、このまま死ぬのはいやだと思ったそうだ。

奇跡的な回復の後、彼は迷わず命を救う活動をすることを決心した。

すごいな！の一言では片付けられないものが心に残った。

彼は人とのつながりを大事にしたいと言った。

人とかわるものの素晴らしさを体験した人の実感のある言葉だった。

ただのお金のやりとりではないものをそこにつくりあげようとしている、日本の若者のきらきらした笑顔がそこにあった。

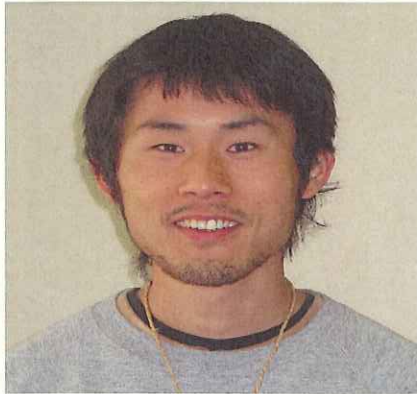
みんなが笑顔でいられるために……

みんなが笑顔になる街づくり・地域づくりを

一緒に考えていきませんか？

イキイキ笑顔人

自分らしく
輝いている人見つけた！



ファイルNo.12: ^{なぐら}名倉 ^{こうじろう}幸次郎 さん 26歳

プロフィール: 1983年吉川市に生まれ育つ。中曽根小、南中に通学。尊敬する人物は坂本龍馬。最近、命をまとう<草木染>と新たな出会いがあり、挑戦中。新たな出会い、挑戦中。

南中時代から熱中したハンドボール

兄の影響を受けて、南中に入学と同時にハンドボール部に入部しました。高校も、大学も、ハンドボールを続けて、ずっとハンドボール漬けの生活でした。

大学2年生の時、試合中に故障して、しばらく選手生活を中断。リハビリを続けながら、ある時「一生に一度の人生だ、悔いのないようにやりたいことをやろう。ハンドボールで飯を食うんだ。プロハンドボール選手になる。それも日本でなくて海外だ！」と決意したんです。まず周りの人に夢を語ることから始めてみました。「プロハンドプレーヤーになる男 名倉幸次郎」と書いた名刺を会う人ごとに渡すこともして、がむしゃらに動きまわっているうちに、始めは冷ややかな反応だった周りから、だんだん応援してくれる人が増えてきました。

世界最強リーグのあるドイツでプロ選手に

まず行動してみるというのが僕の信条です。だんだん回復してきたので、ハンドボール日本一になった実業団チームに、しつこくお願いして練習に参加させてもらいました。ここでは、高レベルに身をおけば、自分も上達できることを知りました。また、大学4年の時、先輩を頼って世界最強リーグがあるドイツのプロチームの練習にも参加でき、ますます夢の実現へ気持ちを高めていきました。

卒業後、恩師の紹介でドイツのプロチームのテストを受け、合格。2006年、念願のプロ選手として<HSG Wolfen 2000>と2年契約し、センターポジションで試合に出場するようになりました。嬉しかったですね。今まで支えてくれた人たちへの感謝の心でいっぱいになりました。

選手生活は順調でした。アジア人は僕一人でしたがチームメイトと心が通い、毎週行われる試合のたびに競技場いっぱいのお客様が詰めかけ、報酬などの待遇も満足のいくものでした。

プロスポーツ選手から一転！

本当の豊かさ、本当の幸せを求めて

自分のライフスタイル探しの「旅」に

ある一冊の本との出会いが、生き方を大きく変えるきっかけになったという名倉幸次郎さん。環境問題を学び、自分にできることをしながら、これからの暮らし方を模索している名倉さんに、イキイキ「笑顔」のわけを語ってもらいました。

生き方を変えた一冊の本との出会い

ドイツでのプロデビューから半年ほどたった頃、僕の生き方を大きく変えるきっかけになる『新地球村宣言』(高木善之著)という本に出会いました。温暖化、ダイオキシン、森林破壊など、地球上で起きているさまざまな環境問題の現状と取り組み、そして、このままでは絶望的なシナリオになることなどが書かれていて、大きな衝撃でした。自分が持っていた豊かさの定義、成功の定義、競争の定義への疑問がわき、以来、環境問題を独学で学び始めたのです。

悩みました。プロスポーツという競争の世界にいる自分はどこまで行けば満足するのか？何のためか？もっと上を目指すのではなく、平和、幸せ、楽しさ、愛への道があるのではないかと・・・。

迷い抜いて選んだのは、競争ではなく共生の生き方。プロ契約を一年残して、日本に帰国しました。

パートナーと共に手探りする「共生への生き方

僕は今まで、家族や友人を始め、多くの人に支えられてきました。中でも、一番身近で支えてくれている存在がパートナーで、彼女とはドイツから帰国後、ずっと行動を共にしています。「共生への生き方」を手探りで始めようと、まず、最初に『TEAM GOGO』プロジェクトという、環境問題を伝える号外を配る活動に二人で参加。

その後、祖母の暮らしていた岐阜県に住み、中学校の教師として1年半を過ごしました。もともと、吉田松陰の考え方に傾倒し、教育の現場を体験したいと願っていたので、いい機会に恵まれたと思っています。暮らし方も、変わりました。都会を離れた土地で、庭で野菜を育て、生ゴミを大地へ還す。

自然のリズムが身体に少しずつ甦ってきたと感じながら、自分自身の理想とするライフスタイルを求めて旅に出ることにしたのが、2009年の春でした。

8人の実践者たちを訪ねる旅

これまで感銘を受けた本の著者や、環境関連の活動で知り合った人を訪ねる旅…。魅力的なライフスタイルの実践者たちの日常に、自分の五感で触れてみたいと連絡をとると、誰もが快く迎えてくれました。どの人の生き方も、考え方も、話しをするうちに“鳥肌全快”になってしまうほど僕の心に沁みこむものでした。

「出会いで人が変わる」と言われますが、その通りだと思います。「持続可能で平和な社会」という同じ方向を向いて行動する8人の大人たちとの出会いは、僕に歩むべき道を教えてくれました。

パートナーと二人、小さな車で日本各地を移動する体験も楽しいものでした。車に詰め込んだ食材で自炊をし、公園の水道で水浴びをしながら、ついでに洗濯もする。時には蚊の襲撃で眠れない夜を車中で過ごしたりと、貧乏旅行ならではの思い出がたくさんできました。

平和で持続可能な社会を求めて

人間の際限のない欲望を駆り立てる現代社会システムの中で、自然は破壊され、放射能が撒き散らされています。効率と利益が優先され、利己的な価値観が戦争を生むこの社会に未来を見出せない人がいる一方で、「持続可能な平和な社会」を求め、自らできることから始めてライフスタイルを変える人が増えていると思います。

農村に希望を抱き、土に触れ、農のある生活をしながら、地域や人地とのつながりを大切にし「半農半X (X=天職)、

暮らしを志す。このライフスタイルこそが、僕たちが探している「未来の暮らし」のような気がしています。だからこそ、この出会いを本というカタチにして、多くの人に、特に若者に伝えたいと思い、出版までこぎつけました。来年は世界を感じ取るために、世界一周へ旅立つ計画です。僕たちの夢の実現に向かう旅は、まだ続きます。

「持続可能な社会をめざす 8人のライフスタイル」 名倉 幸次郎 著 (白水社) ¥1,600



林 良樹・きくちゆみ・
設楽清和・塩見直紀・
正木高志・菊川慶子・
大下充徳・てんつくマン
各氏ら、環境・平和運動
などに関わる8人からの
メッセージが、読者に夢
と希望と元気を運ぶ。

DV講座 ～ドメスティック・バイオレンス～

配偶者等からの暴力(DV)ドメスティック・バイオレンス)は、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。

内閣府の「男女間における暴力に関する調査」では、これまでに殴ったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けたことが「あった」という女性は、全体の二十四・九%、実に四人に一人もいました。

市では、「DVやDV防止、また、平成二十一年八月に開設した吉川市配偶者暴力支援センター」について、広くお伝えすることが、DV防止に繋がると考えており、『DV講座』の出前を行っております。

「気になる人がいるので、ちょっと聞いてみたい」、「DVって、本当は良く分からない」という団体やグループの皆さん、ぜひ、お気軽にご相談ください。

講座内容

「DVとは何か?」、「吉川市のDV施策」等について、DV被害者支援を担当している市職員が、分かりやすくお話しします。

時間 一〜二時間

※内容や時間等、ご希望に応じます。

お申込・問合せ 吉川市 市民参加推進課 男女共同
参画・文化交流担当 ☎〇四八(九八二)九六八五

報告します!

吉川市男女共同参画

ワークショップ

第3次吉川市男女共同参画基本計画の策定にあたり、同計画について今年と来年に渡り、調査・研究する市民ワークショップグループが誕生しました。

そして、平成22年7月の第1回には、市役所職員とともに、まずは勉強会を実施。その内容について報告します。



講演「男女共同参画とその現状、市基本計画に望むこと」

瀬山紀子さん(with you さいたま/埼玉県男女共同参画推進センター)

国際的にみて、日本の男女共同参画は、非常に遅れています。

「夫は仕事、妻は家事・育児・介護」という男性を一家の稼ぎ手とする性別役割分業の日本社会の中では、現在、DV やリストラによる自殺などさまざまなひずみがうまれています。

子育てや就労、慣習など地域の中には、男女共同参画に関わる課題が山積み。ですから、市民と行政が一緒に計画を作っていくことは、新しくとても良い試みだと思います。(一部抜粋)

参加者の声

- 今、自治会で役員をやっていますが、自治会は男性の世界で、女性はお手伝いにすぎません。今後は、女性役員を増やし、活動していきたいと考えています。どうしたら実現できるか、そのための勉強と思い、ワークショップに参加しました。
- 共働きしながら、子育てをし、子どもが成長した今、今度は介護の心配を抱えています。女性が安心して働き続けられるようなまちづくり、計画づくりをしたいです。

募集しています!!

- この情報紙「笑がお」作成に参加して頂ける方を募集しています。
 - この情報紙「笑がお」に掲載する「笑顔」の写真も募集中です。
- いずれも、下記あてにお気軽にお問い合わせください。

発行 笑がおの会・吉川市

※「笑がおの会」は、吉川市男女共同参画推進市民会議OBの活動から生まれました。

問合せ 吉川市 市民参加推進課 男女共同参画・文化交流担当

〒342-8501 埼玉県吉川市吉川 2-1-1

☎048(982)9685 FAX048(981)5682 ✉yoshikawa-mail@city.yoshikawa.saitama.jp

※ 題字については、榎田民子さんのご協力をいただきました。